

誰もがいつまでも住み続けたい 魅力あるまちに！

玉川学園・南大谷地区協議会 ニュース

vol.26（創刊第二十六号）2025.03

発行＆発行責任者：玉川学園・南大谷地区協議会

代表 田代 敏行



まちかどとつきどつき通信の発行

「まちかどとつきどつき通信」は、この地域がいつまでも魅力的で持続可能であり続けるための情報やアイデアを発信しています。

急な坂や階段の多いこのエリアは眺望が良くてとても魅力的なのですが、高齢者やハンディのある人達の移動には大変厳しい環境ですね。3月末発行予定の「まちかどとつきどつき通信」では、地域交通の実証実験である「のりあいサービスさくら号」の運行報告、現在企画準備中の「オンデマンド型医院送迎」プロジェクトについて、そして、空いた駐車場の魅力的な利用提案を特集しています。

「地域交通を考える会」（玉川学園町内会、NPO法人桜実会、NPO法人玉川学園地区まちづくりの会地域資源活性化プロジェクト、玉川学園地区社会福祉協議会の各代表者と責任者が集まり、仕組みの検討作業実施につなげる会）で立ち上げた、桜実会の地域貢献事業「乗り合いサービスさくら号」は、最近では1日平均10人の方に利用されるようになっていきます。好評な理由は、桜実会の運転手さんがとても親切丁寧で気持ちよく安心して乗れるということのようです。7、8丁目の急な坂道や細道を小まわりする「あたたかな乗り物」として、確実に地域に定着してきました。

そして、益々の高齢化や独居化が進む中で、次の移動支援バージョンである「オンデマンド型の医院送迎」を2026年度の本格実施に向けて検討準備中です。その進捗やプロジェクトの概要も報告します。



おむすび食堂



子どもも大人も笑い合える社会を目指して

2025年3月8日（土）、一般社団法人OMUSUBi主催で「子どもと共にありたい大人の学び場」が開催されました。この取り組みは、「こどもにやさしいまちづくり」に向けたアクションの一環です。地域で子どもたちの育ちを支えるため、大人が子どもの育ちについて学ぶ機会を提供し、子どものウェルビーイング（幸福）を地域で支えようとしています。



今回は、欧米で発達支援士として活動されていた茂木厚子先生をお招きし、講義と対話を通じて子どもの発達について学びました。脳の仕組みと発達の進化の過程について教えていただき、その過程における子どもの行動の意味を学びました。子どもが表現する行動や言葉は、すべて育ちの過程に必要なものであることが非常にわかりやすく解説され、子どもの遊びの意味を深く理解することができました。

五感や身体を使った遊びが減り、人との関わりが希薄になっている現代において、子どもの遊びや安心、ゆとりを保証することは大人の責任であり、大人が手を取り合って環境を整える必要性を強く感じました。ご参加の方々とともに、どんなアクションを起こせるかについて熱く語り合いました。

また、おむすびの普段の活動の重要性にも触れていただき、子どもを中心に地域が集い、誰もが自分らしく共に過ごす場を守り続けることの大切さを再認識する貴重な時間となりました。子ども時代に心ゆくまで遊ぶことが、必ず子どもたちの大きな力となることを改めて感じました。



玉川学園・南大谷地区協議会

二世代、三世代に渡る人、明日引っ越してくる人も
住民みんなで創る玉川学園・南大谷のまちづくり・・・
このまちは、人が宝です

おむすびの活動紹介

内容：冒険遊び場 & 子ども食堂

日時：毎月第1土曜日 10:00～14:00



おむすびの活動は、地域の大人と子どもが共に作り上げていくことを大切にしています。どなたでも参加いただけますので、ぜひお越しください。面白い遊びや食材、ご寄付、ボランティアのご協力をいただけると大変ありがたく思います。

また、玉川学園地区社会福祉協議会さまが実施するフードドライブに協力し、集まった食品を配布する場としてもサポートしています。お気軽にお問い合わせください。

玉川学園・南大谷地区協議会 2024年度総会のご案内

日時：2025年6月8日（日）13:30～15:00

場所：玉川学園コミュニティセンター 2F多目的室



懇親会：15:30～16:45（参加自由）

※詳細は、HPにてご案内予定

お問い合わせ

玉川学園・南大谷地区協議会事務局 TEL 042-724-4362

（町田市役所市民協働推進課）

玉川学園・南大谷地区協議会のホームページ

<https://tgmotikukyougikai.blogspot.jp>

代表 田代敏行 toshi_0427tashiro_gakuen0609@yahoo.ne.jp

事務局長 翁真由美 tgmo.tikukyougikai@gmail.com



多世代居場所づくり事業

2025年2月10日・11日、モンゴル＆カザフ遊牧音楽文化祭を開催しました。
2日間で75名もの方々にご参加いただき、ありがとうございました。



モンゴルの馬頭琴&嘶では、馬頭琴の音色とモンゴルの口承文芸に触れられました。馬頭琴やドンブラなどの楽器体験コーナーでは、皆さんが楽しんで弾いている姿が印象的でした。
ドンブラを弾きながらみんなで「ふるさと」を歌ったのは良い思い出です。

また、モンゴル＆カザフから来日されたボルドー氏とクグルシン氏の遊牧生活の中で歌われてきた本物の遊牧音楽を間近に聴くことができる貴重な機会となりました。物質的な豊かさに満ちた便利な社会とは対照的に、常に変化する厳しい自然界で生き抜く遊牧民族の自然との向き合い方、自然を称え、祈る姿勢に尊さを感じました。

地域の方々に遊牧文化や生の音楽を楽しんでもらいたい、異文化に触れて感じたことを大切にしてほしいという思いで開催しています。

また、小学2年生の学校の授業で「スーホの白い馬」を習うので、小学生にも馴染みがあり、馬頭琴やモンゴルの文化について興味を持ち、楽しむことができるのではないかと思います。

今回はモンゴルが好きな方や関心がある方々が集まり、参加者同士の交流が生まれ、地域の方々の顔と顔がつながるきっかけになったことを嬉しく思います。

